

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104907		
法人名	有限会社 サン企画		
事業所名	グループホーム グリーンハウス		
所在地	岡山市中区祇園41-1		
自己評価作成日	平成27年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障がい者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成27年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

これまでの生活環境、また年齢等々様々な方に「共同生活」をして頂く施設として理念を「明るく・楽しく・あたたかく」を目標に取り組んでおります。単に支援・介助するのではなく皆様個々の残存機能を見極め、また個性を重視し持てる力を最大限活用すべく時間にとられることなく、常に「相手目線」に立ち日々の生活の中にケアとして取り込んでおります。また本人をやる気に導いての生活リハビリ支援、機能有する方での掃除、洗濯物のかたづけ、主婦感覚を思い出す調理・食器洗いのお手伝い等もリハビリとして活用しております。

また、季節に応じたイベントも地域行事も含め、施設ならではの古来の行事も取り入れ単調となりがちな日々思い出を残せる活動を取り込んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和やかな雰囲気の中、職員の穏やかな優しい対応が印象的で、入居者の明るい表情につながっています。一人ひとりに向き合い、声を聴くという態度で臨み、利用者の持てる力を活かしながら、楽しい思い出作りにスタッフ全員で取り組んでいます。提携医との連携がよく整えられており、家族との話し合いにも応じ、終末期の大きな支えとなっています。管理者は地域社会との関わりを深めることを目標に定め、近くのカラオケ喫茶を借り切ったり、ショッピングセンターで家族と待ち合わせて買物するなどの新しい試みを始めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領を各ユニットに掲示、ご家族皆様に理念を示すと共に職員は共有事項として推進する。またミーティング時唱和する	明るく・楽しく・あたたかくをモットーに、職員個々に年度目標(長期・短期)を定め、3ヶ月ごとに評価し、ミーティング時に唱和して共有と実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元町内会行事として「餅つき」「夏祭り」や公民館行事に参加。見学場所の確保など協力頂く。近くの神社は散歩コースとして、また花見会場として活用させて頂き近隣住民とも接点を持つ。	近くの神社への散歩時の挨拶、公民館行事・町内会の餅つき・夏祭りへの参加などを続けており、地元出身の代表者とのつながりもあり、地域の一員として交流しています。	散歩時の挨拶や各種行事への参加とともに、事業所自体が地域の一員としてつながりながら、気軽に行き来できる関係作りを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加するなどして理解を深めて頂ける様努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・民生委員・包括センター・公民館・近隣施設代表・市議員・ご家族代表で構成、サービス状況の評価取り組みほか毎月にテーマを決めイベントへの参加・消防・薬剤師等の外部講師を招き勉強会等も並行実施しサービスに活かしている。	家族・地域住民・町内会長・民生委員・公民館職員・地域包括支援センター・同業者・地元市議員などの参加を得て2ヶ月毎に開催し、状況報告や話し合いを行い、時に講座を開催してサービス向上に役立てています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括支援センター・公民館に入って頂き交流を深めています。また独自解決出来ない事項は岡山市介護保険課に相談、助言を頂いている。	わからないことや相談など、日頃から市の担当者と連絡を密に取り、実情を伝えながら協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除指針を作成、これに則し進めている。	対象となる具体的な行為について情報収集し、ミーティングで話し合って理解を深め、職員間でお互いに注意し、安全に配慮しながら身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会・ミーティングなどで学ぶ機会を持ち、身体的・言葉の暴力には各自自覚し見過ごされることが無いようにチームとして取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し知識を広める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間をかけ説明し理解頂いている。また疑問、不明点発生した場合いつでも質問して頂くよう伝えている、また改定等が発生した場合は文章での報告、利用料金に関する改定が発生する場合は「同意書」を頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「苦情解決の流れ」ポスターを掲示すると共に契約時説明、匿名含め随時受け付けている。意見は申し送りノート記載し協議すると共に職員間で共有。反映させるようにしている。	匿名の家族アンケート(勉強会への要望や掃除についてなどの記入あり)を受け、面会時に聞き取り、申し送りノートに書き留め、職員間で話し合い、それらを反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングにおいて討議している。代表者と気軽に話しが出来る雰囲気作りをしている。	代表者自らもスタッフの一員であり、管理者や職員は日頃から気軽に話ができ、ミーティングでの話し合いとともに、意見や提案を聞く機会が確保され、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の自主性を尊重し向上心を持って就業できるようにしている ・残業ゼロを目指した適正人員配置 ・個人希望を取り入れた勤務シフト 		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修案内書をファイル保管、受講希望者・指名者へ勤務配慮する。また研修内容をミーティング時に内部研修として情報の共有化を図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアマネジャー研修会への参加、また推進会議メンバーに近隣施設代表者も加え情報交換を図る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活環境が大きく変化することでの不安・心配事等の対処として十分なるコミュニケーション・観察、そして得た情報をスタッフ間での共有化を図り、早期に安心の確保・人間関係を築く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時にしっかりと話しを伺い、要望などはサービスに反映出来る様努めている。また入居者本人から仕入れた情報をフィードバックし対応策の検討等、家族を巻き込み信頼関係の強化を図る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接時に御本人の生活状況、心身状況を把握するよう努めている。必要により地域包括センター等を巻き込み対応を協議する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとして「家庭の延長とした施設」を念頭に置き「相手目線」を重視、人生の先輩としての共同生活とした関係を構築する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来園時には入居者の日々の様子を伝え状況を把握して頂くと共に職員と家族がお互い思いを伝えあう環境を構築、協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆や正月の帰省の呼びかけ、イベントへの参加の呼びかけ、年賀状や遠方の方は手紙のやり取り支援など行い、馴染みの関係が途切れない様努めてる。	手紙のやり取り、盆・正月の帰省、行きつけの美容院・喫茶店の利用、家族と待ち合わせでのショッピングセンターでの買物など、馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めています。	本人がこれまで大切にしてきた人や場所とのつながりが継続できるように、意向を把握し、懐かしさや嬉しさへの支援をこれからも期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でコミュニケーションを図れるようリビングとは別に談話スペースを設けたり、日常生活の中で関係が築けるようスタッフが目配り・気配りを実施、また間の取り持ち含め配慮しなごやかな時を提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、転居先や入院先へ訪問、必要に応じてご家族の相談や支援が出来るように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活とした枠はあるものの可能な事項は本人の意思を最大限尊重、思いを掌握し対処する。また発語・意思疎通困難者の方は日々の中で見える表情や行動などから思いを汲みとるよう努めている	家族から聞き取り、本人との対話や観察を重ね、申し送りノートに書きとめ、カンファレンスで話し合い、一人ひとりの思いや意向を把握するように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時やご本人との日常会話、ご家族のお話からこれまでの暮らしを把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活リズムに配慮しストレスを溜める事のない様配慮している。また日常の中で出来る事を見つけ、継続出来る様職員間で検討、実践している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を確認、モニタリングをし、カンファレンスにて話し合い現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、本人・家族・医療・担当者などの意見を参考に、カンファレンスで話し合い、それぞれの意見やアイデアを活かし、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に即したケアの実践や結果、気づきなどを個別に記録、情報を共有することで今後の実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況に応じ受診の支援を行ったりするなど、柔軟な対応を心掛けている。また食事療法等必要時対応を実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内や公民館の行事に参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関係の医療機関があるが、ご本人・ご家族に選択して頂く。本人がかかりつけ医の場合は連携図れる様関係強化に努めると共に協力医は 24時間対応可能として協力頂いている。	提携医の定期的な往診や24時間のサポート、訪問看護師や所属看護師の支えもあり、従来のかかりつけ医への受診を含め、適切な医療支援がなされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師スタッフ1名、また契約訪問看護師が定期訪問。協同で体調管理に努めている。また契約訪問看護師は協力医とも契約されており情報交換可能となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は病院関係者と密に情報交換を行い、早期退院に向けて話しあうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成。ご家族に説明し同意書を頂いている。また協力医からもご家族へ直接状況説明・今後の方針等相談頂きチームとして対応する。	本人や家族の意向をふまえ、説明と同意を得て、医師・看護師・職員・家族(時に泊り込み)が連携をとりながら、安心して納得した最期を迎えられるように、チームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて救命救急講習をスタッフ全員が順次受講、今年度は中消防署に出張頂き救命救急講習も実施、あわてる事のない様緊急時の対応方法もマニュアル化し掲示。またAEDも設置済。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災・避難訓練を実施。近隣の消防署による救命救急講習には運営推進会議の出席者にも参加して頂いている。また次年度避難訓練は消防署に助言頂き立ち会いの基、実際に「通報装置」を動作させた訓練を予定している。	緊急時マニュアル(火災・消火器・地震・水害・火災報知機・停電など)をもとに、訓練を実施しています。運営推進会議で話し合い、消防や地域が参加しての訓練が今後の課題とのことです。	災害は多岐にわたり、突然起こるものですが、事業所の特性に応じ、地域や関係機関の協力を得て、具体的な想定をしての話し合い・点検・整備・訓練を今後も期待しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き、優しい声掛けや対応に配慮しその人の人格を損ねないように心掛ける。	一人ひとりの個性やその人らしさに配慮し、優しくさりげない言葉かけや対応で接し、聴くという姿勢で臨んでおり、明るく穏やかな表情につながっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間がかかっても本人の意思を尊重し、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の本人の気持ちを尊重し出来るかぎり個性のある支援を行えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択等自主性を尊重。お化粧の習慣がある方には継続的に出来る様支援。その他の方でも施設にメイク道具あり、イベント時など女性の希望者にはお化粧をしたり、ネイルをしたりとおしゃれを楽しんで頂けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理や盛り付け、配膳、洗い物など一緒に出来る事はスタッフと共に行っている。洗い物をして下さり「今日は主婦にかえりました」とほほ笑まれる事もあります。	収穫した野菜を採り入れ、利用者の力を活かしてできることを一緒に行いながら、三度三度手作りし、刻み食の方にも食事が進むように、声をかけ合って、皆でテーブルを囲んで楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は個々の状態により柔軟な対応を心掛けている。食欲減退時などは栄養補助食品も活用し低栄養にならないよう配慮。水分量や食事量は毎回チェックし、水分摂取困難な場合はトロミ剤や寒天などで対応。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施。ご本人の状況に応じ口腔ティッシュなども利用。夜間は義歯預かり、入れ歯洗浄剤にて洗浄実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔を把握。適時声掛けや、トイレ介助行い、トイレでの排泄を維持できるよう支援している	パターンを把握して随時声かけし、トイレ（ポータブル利用もあり）での排泄をこころがけ、オムツを減らす取り組みで、紙パンツから布パンツに移行された方もあり、自立に向けて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にて把握し、状況により豆乳・牛乳、飲料等を提供したり、内服薬併用し便秘の予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本日程はあるが、個々の希望や体調、気分に配慮し入浴して頂いている。また準備などはスタッフ付添い自分で行える様支援している。	入浴拒否者には様子をうかがいながら、重度者には二人対応でと、一人ひとりの体調やタイミングに合わせ、安全に配慮しながら、個々にそった支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調により日中も臥床して頂ける様にしている。また寝具やパジャマは定期的に交換し清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤添書を個人記録の中にファイリング、申し送りノートにも記載し把握するようにしている。症状の変化も観察し、変化あれば主治医に報告。薬には日付と名前を記載。誤薬を防ぐため職員間でのチェック体制を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や能力に応じ、気分転換が図れる様支援できるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、外出や外食など行っている。またドライブや近隣の店へ買い物に行ったり、近所のお宮まで散歩に行ったりしている。御家族の協力でお出かけされる事もある。	散歩、菜園の収穫、庭のベンチでのお茶や食事、買物、外食、ドライブ、各種行事への参加などのほか、今年度は近くの喫茶を借り切ったカラオケ、家族と待ち合わせでのショッピングセンターでの買物など、新しい外出支援にも取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の人になってしまうが、自身で管理され、買い物支援を実施。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあればいつでも対応。遠方に住む親族の方と手紙のやり取りを楽しまれる方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や空調、家具や調度品に配慮し居心地の良い空間づくりに努めている。また季節の花などを飾る事で季節感を感じて頂ける様工夫している	陽光が差し込む窓辺のテーブルと椅子のミニコーナー、畳の間のこたつや点在するソファなど、居場所を選んでくつろげる演出がなされ、作品や写真が貼られ、高い天井には天窓があり、明るく開放的で、居心地よく過ごせる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビング、畳コーナー、談話コーナーなどその時の気分で各々が自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や寝具を置き、絵や写真、置物など飾り居心地の良い空間を各々作られている。	テレビ・家具・仏壇などを持ち込み、なかには床に布団を敷いている方もおられ、写真や身の回りの物を思い思いに配置して、本人が居心地よく過ごせるように工夫しています。家具には耐震装置が施されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内バリアフリー、手すり設置。居室はベッド使いづらい方には畳対応し、安心安全に生活していただけるよう工夫している		